

岐阜県の被害地震

西暦 (和暦)	規模	被害などの概要
745 6.5 (天平17 4.27)	M 7.9	35.4° N 136.5° E 美濃・摂津大いに震う。美濃国殊に甚しく、人家を壊く。余震月を越えて止まず。是の日より三日三夜に互りて震動し、美濃国櫓館、正倉、仏寺、堂塔、百姓廬舎触るる所崩壊す。 (続日本紀)
762 6.9 (天平宝字6 5.9)	M 7.0	36.0° N 137.5° E 美濃、飛騨、信濃など地震。(続日本紀)
887 7.24 (仁和3 6.30)	不明	美濃大地震 (三代実録)
1185 8.13 (文治1 7.9)	M 7.4	35.0° N 135.8° E 山城、近江、美濃、伯耆諸国地大いに震う。(山塊記)
1406 (応永13 8)	不明	池田郡坂本村付近大震あり。(美濃気候編)
1586 1.18 (天正13 11.29)	M 7.8	天正地震 36.0° N 136.9° E 飛騨白川谷で山崩れ、帰雲城埋没、死者300。近江長浜、美濃大垣震火。同年硫黄岳大噴火し、溶岩山麓道路を埋め、信濃峠一時杜絶するとのことなるも、噴火のためか、地震のためか明瞭ならず。(大日本地震史料)
1627 3.8 (寛永4 1.21)	不明	諸国大震。池田郡の地亦震う。(美濃気候編)
1662 6.16 (寛文2 5.1)	M 7.4	35.2° N 135.95° E 美濃諸国の地大いに震い、人畜屋舎被害多し。 (大日本地震史料)
1681 3.28 (天和1 2.9)	不明	東濃地震 (大日本地震史料)
1703 11.30 (元禄16 10.22)	不明	飛騨地方大地震あり。翌日尚止まず。(飛騨編年史要)
1707 10.28 (宝永4 10.4)	M 8.4	宝永地震 33.2° N 135.9° E 五畿、南海道、三河、遠江より駿河、伊豆、美濃、播磨、日向等大地震。神社、仏閣、城廓、民家の転破するもの無数。美濃国にては、垣破損6,900余間、潰家400軒、破損家473軒あり。 (大日本地震史料)
1711 10.8 (正徳1 8.26)	不明	美濃、稲葉山鳴動す。(塩尻)
1715 2.2 (正徳4 12.28)	M 6.8	35.4° N 136.6° E 大垣城の石垣所々崩壊。(大垣市史)
1745 5.25 (延享2 4.24)	不明	大垣七ツ時大地震。(大垣市史)
1760 7.16 (宝暦10 6.4)	不明	飛騨、旗鉾村銚子ヶ谷山崩る。(大日本地震史料)
1772 7.20 (安永1 6.20)	不明	飛騨益田郡内360ヶ所山抜け。(大日本地震史料)
1773 8月上、中旬 (安永2 6月下旬)	不明	飛騨、大八賀山口村山崩れ、土砂降る。(大日本地震史料)
1780 5.23 (安永9 4.20)	不明	飛騨の地強く震う。(飛騨地震年表)
1783 8.3 (天明3 7.6)	不明	信州浅間岳噴火し、ために高山付近強震十幾回に及び降灰あり。その後天候不順にして稲熟さず。 (大野郡史、飛騨編年史要)
1788 7.12 (天明8 6.9)	不明	池田郡春日谷大震あり。山岳崩壊、家屋社寺の倒壊あり。 (美濃気候編)

西暦 (和暦)	規模	被害などの概要
1789 7.10 (寛政1 6.18)	不明	飛騨金桶、大江、高原郷等数ヶ村山崩れ。(大日本地震史料)
1799 4.9 (寛政11 3.5)	不明	京都地震あり。揖斐郡にては、以後数日間数十回の地震あり、人畜死傷あり。(美濃気候編)
1804 10.1 (文化1 8.28)	不明	飛騨法力村武蔵山3間四方深さ4～5間の穴一夜に出きる。(大日本地震史料)
1816 3.1 (文化13 2.3)	不明	飛騨強震。(飛騨地震年表)
1819 8.2 (文政2 6.12)	M 7.2	35.2° N 136.3° E 伊勢、美濃大震あり。美濃にては近江、伊勢に接する地方甚だしく、家屋の倒壊、人畜の死傷あり。人民救助を賜はる。高須輪中の堤防破壊せるもの多し。 (大日本地震史料、濃飛両国通史)
1824 2.12～13 (文政7 1.13～14)	不明	京都大震あり。県下にては可児郡にて之を感じ、13日、日の出頃に大地震あり。翌14日、日没頃大小18～19回の震動ありて、人民の狼狽一方ならず。加茂郡神土にては、山岩転がり、土蔵の壁亀裂せり。(美濃気候編)
1826 8.28 (文政9 7.25)	M 6.0	36.2° N 137.25° E 飛騨大野郡家屋土蔵崩れ、所々井戸水濁る。(大野郡史)
1830 8.20 (天保1 7.3)	不明	飛騨7月3日より5日の間大地震。(八賀記録)
1832 5.1～29 (天保3 4.)	不明	揖斐郡川上地方大震。倒家あり。(美濃気候編)
1833 5.27 (天保4 4.9)	M 6.2	35.5° N 136.6° E 武儀郡上牧地方大震あり。美濃、大垣、9日より13日迄大地震、山崩れ。人畜多く死す。(小関三栄書論)
1834 5.16 (天保5 4.8)	不明	強震あり。揖斐郡富秋村地方山岳崩壊し、岩石墜落あり。 (美濃気候編)
1847 5.8 (弘化4 3.24)	M 7.4	善光寺地震 36.7° N 138.2° E 県下にては至る所に之を感じ、余震連日に至りて止まず。人心恟々として屋外に避難すること旬日に及べる所あり。地面、道路所々に潰裂し、家屋倒壊ありしも詳細不明。飛騨白川保木脇村山崩れ、人家2戸埋没、男女数十人圧死。 (美濃気候編、大垣市史、飛騨編年史要)
1854 7.7～9 (安政1 6.13～15)	M 7.2	34.75° N 136.0° E 美濃にては14日特に強く、可児、土岐郡等にては弘化4年善光寺地震より強烈にして、余震頻発し、同郡及び本巢郡地方にては、人民小屋を建て避難せること一週間余に及べり。 (美濃気候編、続々泰平年表)
1854 12.23 (安政1 11.4)	M 8.4	安政東海地震 34.0° N 137.8° E 五ツ時、畿内、東海、東山二道の諸国大いに震う。美濃国にては、高須、大垣、加納、不破郡、土岐郡、恵那郡にて倒壊家屋少なからず。堤防道路の割裂あり。且つ家屋の小破、壁の剥落等甚だ多し。(美濃気候編)
1854 12.24 (安政1 11.5)	M 8.4	安政南海地震 33.0° N 135.0° E 七ツ過ぎ大いに震う。(美濃気候編)

西暦 (和暦)	規模	被害などの概要
1855 1.17 (安政1 11.30)	不明	前回の地震なお止まず。30日特に強く、余震連続して降雪あり。不破郡地方の如き積もること1尺4~5寸に及びしが、同郡表佐村にては仮小屋を設けて避難し、家屋の倒壊あり云々とあるを見れば、一般に震度強烈なりしならん。(美濃気候編)
1855 3.18 (安政2 2.1)	M 6.7	36.25° N 136.9° E 飛騨白川、大牧、保木脇地方地震。山崩れ、死者を生ず。余震多し。(大日本地震史料)
1858 4.9 (安政5 2.26)	M 7.1	飛越地震 36.4° N 137.2° E 飛騨潰家709、死者203、山崩れによる水害甚し。越中街道杜絶。(飛騨編年史要)
1880 (明治13) 5.23	不明	強震あり。池田郡地方殊に強し。(美濃気候編)
1885 (明治18) 1.17	不明	武儀郡東部及び加茂郡に亘りて強震あり。1日6回に及び、余震は28,29日に及び。 (美濃気候編)
1888 (明治21) 12.3	不明	飛騨、平湯土地鳴動、石碑倒る。(大日本地震史料)
1889 (明治22) 5.12	M 5.9	35.4° N 136.8° E 美濃南部に強震あり。震域東、豆相より西、四国の東部に及び。震度の最も強かりしは安八、本巣、武儀、加茂、可児の各郡及び尾張の愛知郡にして、南北に面せし時計止り、壁に亀裂を生じ、液体の溢出せしものあり。岐阜近傍にては、人々大いに狼狽し、長良川筋上ヶ門の堤防に長き割裂を生ぜり。(美濃気候編)
1891 (明治24) 10.28	M 8.0	濃尾地震 35.6° N 136.6° E この日午前6時35分の激震は、最近60年間に於ける我国最大の地震にして、西は四国、九州、東北は陸羽地方及び佐渡に達し、激震区域は、美濃の西部9分、尾張国北部9分、越前南部8分、加賀南部1分、近江北東部3分、伊勢北部1分にして、面積720方に及び、震源は、本巣郡根尾村水鳥に現れたる大断層とす。人畜の死傷、家屋の倒壊、道路堤防の崩壊、割裂等算なく、その惨状実に言語に絶せり。美濃にては、死者4,990人、全壊家屋70,048軒に達せしが、飛騨、郡上郡及び恵那郡にては、殆んど被害と称すべき程のものなかりし。傷者12,783人。(美濃気候編) 岐阜市に於ける発震時は、午前6時37分17秒。 岐阜では余震が10年も続いた。(大震報告) ※「震度5階級による震度別回数」及び「郡市別被害表」は欄外に記す。
1892 (明治25) 1.3	不明	濃尾国境に強震あり。東武蔵より、西は伯耆に達し、うち最も甚しかりしは、尾張国東春日井及び美濃国土岐郡にして、粗造なる家屋及び土蔵は多少傾斜し、障壁に裂け目を生じ、棚上の器物を倒落し、振り時計は往々停止し、陶器窯は倒壊して、陶土坑を崩塞するに至れり。(美濃気候編)

西暦 (和暦)	規模	被害などの概要
1894 (明治27) 1.10	M 6.3	35.4° N 136.7° E 岐阜、名古屋地方の強震。この地震は、濃尾大震以来の烈震にして、震央は岐阜、名古屋両市間に介在し、羽島郡田代村、葉栗郡太田島等は地盤割裂して、泥水を噴出せし所多く、物体の転倒、器物の墜落等は普通の出来事にして、石垣の崩壊数10ヶ所に及び、戸障子折れ、石碑、石灯籠の類殆ど転倒せり。然れども、人畜の死傷なかりし。(美濃気候編)
1898 (明治31) 8.13	不明	午前11時31分強震あり。美濃国各国に感じ、家屋の動揺甚しく、人々戸外に出て時計の止まりし所多く、土岐郡の地方は棚上の物体落ち、海津郡にては新壁落ち、安八郡にては河水溷濁せる所あり。(美濃気候編)
1898 (明治31) 11.13	M 5.7	35.3° N 136.7° E 美濃の国境木曾川沿岸地方を震源とせる強震あり。東は越後、西は四国の北岸に達し、被害区域は木曾川沿岸津島、太田島、大垣等に於て最強烈にして、墻壁には亀裂を生じ、中には崩壊墜落し、時計止まり、液体溢出せし所あり。(美濃気候編)
1899 (明治32) 3.7	M 7.0	34.1° N 136.1° E 午前9時54分強震あり。東は常陸より、西は対馬、大島に達せしが、美濃国全部に感じ、液体の溢出、時計の止りし所あり。本巣郡根尾村、長嶺付近にては山岳崩壊せし所あり。(美濃気候編)
1899 (明治32) 3.31	M 5 1/2	本巣郡根尾村付近に発せる強震あり。東は東京より、西大阪に感じ、根尾村長嶺にては、棚上の器物は過半抛擲せられ、家屋、土蔵の壁には亀裂を生じ、近傍の山岳崩壊して、土石の転落したる所あり。(美濃気候編)
1900 (明治33) 5.31	M 5.3	震源、根尾谷付近。震央付近に山崩れあり。(大日本地震史料)
1906 (明治39) 4.20~21	M 5.9	益田郡萩原付近の局発性地震。益田郡土蔵の壁又は道路に亀裂を生じ、墓碑の転倒あり。(美濃気候編)
1909 (明治42) 8.14	M 6.8	江濃 (姉川) 地震 35.4° N 136.3° E 死者6、重傷18、家屋全壊51、家屋半壊138、壁の剥落、堤防道路の割裂、石灯籠の転倒あり。(美濃気候編)
1934 (昭和9) 8.18	M 6.3	美濃八幡町付近の地震。35.635° N 137.070° E 土蔵山崩れ、道路亀裂、重傷1 (気象要覧)
1944 (昭和19) 12.7	M 7.9	東南海地震 33.573° N 136.176° E、岐阜で震度5。 西、南濃地方を中心に死者13、倒壊家屋30余あり。(気象年報)
1945 (昭和20) 1.13	M 6.8	三河地震 34.703° N 137.115° E、岐阜で震度4 西、南濃地方に被害あるも、詳細不明。(気象年報)
1946 (昭和21) 12.21	M 8.0	南海地震 33.03° N 135.62° E、岐阜で震度5 死者14、負傷61、家屋全壊586、家屋半壊952、家屋焼失1、住家被害総坪数30,018坪。(気象要覧)
1948 (昭和23) 6.28	M 7.1	福井地震 36.170° N 136.293° E、岐阜で震度4 橋数ヶ所のほか多治見地方窯の被害あり。

西暦 (和暦)	規模	被害等の概要
1961 (昭和36) 8.19	M 7.0	北美濃地震 36.112° N 136.700° E、岐阜で震度3 石徹白地方最も甚しく、地害れ(長さ60m、巾5~9cm)山崩れ、崖くずれ、道路損壊あり。死者2。
1969 (昭和44) 9.9	M 6.6	14時15分、岐阜県中部 35.783° N 137.067° E、深さ0km 震源付近の郡上郡の大部分と益田郡の南西部は震度5、岐阜・高山は震度3であった。この地震は中部・関東・関西地方全域と東北・中国・四国地方の一部で人体に感じた。死者1、負傷者10、家屋半壊86、道路損壊7、山崩れ36、橋梁流失2。
1984 (昭和59) 9.14	M 6.8	長野県西部地震 08時48分、長野県西部 35.825° N 137.557° E 岐阜・高山で震度3を観測し、内陸地震としては規模の大きなものであった。震源近くの長野県木曾郡王滝村をはじめ、広範囲にわたり土砂崩れなどが発生し、王滝村では多数の死者が出た。この地震の余震は最大震度3を含め数多く観測された。東濃地方、飛騨地方で被害が発生した。家屋半壊48、田畑流失1ha、山崖崩れ2、被害総額1億1468万3千円。

この資料は、『岐阜県災異誌』、『同(第2編)』、『新編日本被害地震総覧』によるものを一部加筆修正した。

◆ 【濃尾大地震】関連資料 ◆

震度5階級による震度別回数

年	月	烈震	強震	弱震	微震
明治24	10	4	40	660	1
	11	2	29	852	106
	12	3	9	204	137
明治25	1	1	8	45	74
	2	0	5	5	67
	3	0	1	4	52
	4	0	2	10	65
	5	0	0	5	42
	6	0	1	1	19
	7	0	0	3	21
	8	0	1	3	31
	9	1	0	3	79
	10	0	1	2	37
	11	0	0	3	40
	12	0	0	2	30

年	月	烈震	強震	弱震	微震
明治26	1	0	0	1	23
	2	0	0	1	16
	3	0	0	1	47
	4	0	0	0	54
	5	0	0	3	25
	6	0	0	0	12
	7	0	0	0	17
	8	0	0	0	10
	9	0	0	0	18
	10	0	0	0	18
	11	0	0	2	11
	12	0	0	2	12

郡市別被害表

郡市名	人口	死者	傷者	戸数	全壊	半壊	全焼	半焼
岐阜市	28,731	245	1,260	6,346	969	3,024	2,325	18
厚見郡	41,815	721	1,237	8,343	5,371	2,810	34	—
各務郡	20,783	74	203	4,373	1,765	2,528	1	—
方県郡	29,346	327	1,071	5,952	3,113	2,828	2	3
羽栗郡	39,203	796	1,757	8,355	5,932	1,240	1,133	—
中島郡	20,483	210	350	3,899	3,437	460	2	—
海西郡	10,733	54	130	1,979	1,093	884	—	—
下石津郡	15,797	39	99	2,939	577	1,771	—	—
多芸郡	28,071	109	350	5,238	1,663	1,503	3	—
上石津郡	10,493	1	7	2,303	—	4	—	—
不破郡	30,450	30	35	6,416	503	896	—	—
安八郡	77,037	1,213	2,025	15,777	11,271	3,591	915	—
大野郡	34,086	116	387	6,769	2,104	1,798	1	—
池田郡	29,376	21	72	6,081	596	1,633	—	—
本巣郡	32,726	515	2,209	6,799	5,567	1,224	8	—
席田郡	3,600	19	37	739	513	226	—	—
山県郡	27,872	358	1,132	5,915	2,746	1,728	3	—
武儀郡	85,285	106	214	15,847	950	4,054	143	2
郡上郡	58,282	1	3	9,709	1	4	—	—
加茂郡	64,522	20	151	12,066	1,307	1,989	—	—
可児郡	34,780	12	37	6,837	545	700	—	—
土岐郡	38,208	2	17	8,425	79	203	—	—
恵那郡	68,343	—	—	12,939	—	17	—	—
計	830,022	4,989	12,783	164,046	50,102	35,115	4,570	23

(注) 以上は、大震報告による。

岐阜県地震一覧表(明治26年2月調べ)による1市25郡の被害は次の通り。

死者 4,984人 負傷者 13,762人

家屋全壊 50,001戸 家屋半壊 33,459戸 家屋焼失 4,455戸